

会議等名	海老名市高齢者保健福祉計画 第3回策定委員会
日時	平成29年7月18日(火) 午後1時30分から3時まで
場所	海老名市役所 政策審議室
出席者	<p>委員：伊勢田委員、今別府委員、大石委員、松竹委員、大矢委員、 亀子委員、内山委員、小賀坂委員、清水委員、越谷委員、 手塚委員、河野委員(山崎委員欠席)</p> <p>事務局：保健福祉部次長(健康担当)木村洋 高齢介護課長 萩原明美 介護保険係長 荒井保、 高齢介護課主幹兼介護認定係長 大島みどり、 高齢者支援係主事 山崎禎広</p> <p>傍聴者：なし</p>
概要	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) アンケート集計結果について</p> <p>(2) 現事業評価について【資料1～3】(説明：山崎)</p> <p>《質疑・意見等》</p> <p>委員：互助の重要性が叫ばれている中で、「介護する人」、「介護される人」という分け方で評価するのはいかなるものか。実際に高齢者の中で支え合いをしていく中では、そのような分け方はできないと感じている。</p> <p>事務局：軽度者の方にも支える側に回って頂くためには、どのように互助に参画するのか、互助のシステム化を図る必要がある。</p> <p>委員：高齢者の意識の問題でもあると思う。</p> <p>委員：今回のアンケート集計で、問11「今後、行ってみたいこと」において『ボランティア』と回答した方が少ない。支える活動をしたいという意識を持っていない方も多く、見守り・防犯パトロールを行う際にも高齢者が参加することが多く、上手くマッチングしない。定年となった方々が参加しやすい仕組みづくりや、互助への意識作りをどのようにしていくか考えていく必要がある。</p> <p>委員：働くことを生きがいとしている方も多い。働いている頃から、地域との関わりを意識付けしていくことも必要。</p> <p>委員：働いている頃から地域と関わりを持っている人が、定年退職後も関わる人が多い。</p> <p>委員：ボランティア養成講座、海老名元気お裾分けクラブ等、高齢者自身が活動をする場もあるが、その辺りについて事務局でデータはあるのか。</p> <p>事務局：海老名元気お裾分けクラブについては、利用者は横ばいとなっている。登録者数は徐々に増加しているが、高齢者によるボランティアを受け入れる世帯があまり増えていない。</p>

委員：個人のお宅にボランティアに行った場合、どのようなことをするのか。

事務局：話し相手になる程度のことしかできない。ヘルパー等の生活支援サービス等とは違う。

委員：認知症サポーター養成講座については、今後充実させていく必要があると思う。補助金や予算立てから検討していただきたい。

委員：認知症予防の教室については、「認知症」という言葉を使うと、本当に認知症の危険がありそうな方が来ないという現状がある。教室名について、工夫をすることが必要。

事務局：認知症サポーター養成講座も、認知症に対してある程度意識を持っている方が来る傾向はあるが、実際に認知症がありそうな方は、認知症サポーター養成講座というよりは、地域包括支援センターに繋ぐことが必要であると考えている。認知症サポーター養成講座については、サポーターの今後のステップアップについて考えるよう、国からも指示がきている。今後どのようにステップアップを図っていくか、検討して行く必要がある。

委員：私も認知症サポーター養成講座を受けたが、具体的に何かをするというわけではない。周りを見ても認知症への関心は高いが、やはり何かを行う際には「認知症」という言葉が入ると人が来ないと考えている。

委員：市の認知症講演会を受けて、病院へ行き、介護者の会を紹介された家族もいた。介護者の会は、介護の経験者が集まっているため、色々な話をするができる。話を聞きに来ていただければ、介護の心配を解消することができる。

委員：認知症のサポーターと、心配な方というのは分けて考えた方がいい。以前認知症の方に声をかけられて、交番まで連れて行ったことがあるが、本人も不安なため、声かけをして安心させながら連れて行った。こういったことはサポーターがやるべきこと。

また、市の施策や介護保険の利用方法等は、わからない方も多く、地域包括支援センターの認知度も低い。介護保険等、必要性が出て地域包括支援センターと繋がったタイミングで介護保険や安心キット、講座等について説明会を開くと関心も強く理解されやすいのではないかと。

委員：民生委員は、地域への参加等に意識があるが、一般の方で関心がない方は地域のことには参加しない傾向が強い。認知症の方が、自身が認知症であることを地域で公言することで、何かあった時に助けてもらえると思う。

委員：問8「介護で困った時の相談先」の回答では、『家族や親戚』が多いが、地域包括支援センターは専門職の方が集まっており、相談する方が増えていくべき。地域包括支援センターのPRをどのようにするかも、計画に盛り込んでいく必要がある。

委員：介護保険サービスや、それ以外のサービスの利用意向について、『わからない』の回答が多い。恐らく、市民の方は介護サービス等について「どうやって使えばいいのかわからない」、「知らない」という方が多いのではないかと。地域包括支援センターに来所しても、サービスをどのように使うのかわからない方も多い。サービス等をどのように周知していくのかも、課題である。

委員：元気な方は介護サービス等に関心がないことが多い。自身も、親族の関係でサー

ビスが必要となり、市に連絡をして地域包括支援センターを知ることとなった。それまでは、広報等を見ても、興味がないため目を留めなかった。そのような興味がない方にどうやって興味を持たせるかが難しいと感じる。

委員：地域包括支援センターについては、ふれあいサロン等へ包括職員が参加することで、地域の方が顔を覚えていった。地域包括支援センターの方がサロン等に参加していくことが、認知度を上げることにつながるのではないだろうか。

委員：地域に出てくる方は、ほとんどが元気な方となっている。本当に認知症がありそうな方や、あるという不安を持っている方は、地域に出て来ないことが多い。そういった方に地域に出てきていただくためには、色々な機関で連携して考えていく必要がある。

委員：知人が認知症となった際に、知人の家族がどの程度理解しているかわからないため、伝えるのが難しい。地域包括支援センターについても、あることは知っているが、中々行かない。

委員：先日、地域で公園の草むしりに参加した。50名程度参加していたが、日頃挨拶を交わす方についても、そこで会話をして初めて相手のことを知ること多かった。そのような日常的な関わりも重要であると思う。

委員：社会福祉協議会や自治会、市も地域の方が集う場を設けているが、実際に行く人は限られる。「集いがある」というだけでなく、どのように参加していただくか考えていく必要がある。ボランティアについては、来てほしくない考える方もいる。それは、個人情報や何か事故があった時の保険がないことが、障壁となっている。

委員：地域包括支援センターについては、サロン等にも参加してPRをしていく。また、アンケートにおいて、二次的な相談窓口を問う質問があれば、包括を相談窓口に掲げる回答も増えたのではないか。

委員：ゆめクラブの中で地域包括支援センターの方に話をしていただくのも、周知の一つとなるのではないか。

委員：先日、学会の中で、TVを見ている時間が長いと認知症になりやすいという統計結果が出ているという話があった。自分も含めて、委員の方々も気を付けて、認知症を予防していきましょう。

(3) その他

- ・本日欠席だった、山崎委員からの意見を紹介。
- ・次回会議は、8月28日(月)13:30～、政策審議室にて開催予定。

4 閉会

以上